

平成24年中の人口の動き

I 人口動態

ここで述べる人口の動きは、住民基本台帳法の規定に基づく出生・死亡・転入・転出の届出を集計したものである。（平成24年7月8日までは外国人登録法の規定に基づく届出を含む。）

「自然動態」とは、一定期間における出生・死亡に伴う人口の動きであり、「社会動態」とは、転入・転出に伴う人口の動きである。これらの自然動態と社会動態を合わせた人口の動きを「人口動態」という。

自然増減数＝出生数－死亡数 社会増減数＝転入数－転出数 人口増減数＝自然増減数＋社会増減数

表1 人口の動きの推移

年次	全市	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	本区	北須磨	垂水区	西区
人口動態（人口増減数）												
震災前平均	10,446	692	△ 1,246	△ 1,283	△ 1,411	4,447	△ 1,752	99	△ 720	819	664	10,235
平成7年	△ 46,841	△ 17,330	△ 12,078	△ 6,029	△ 9,121	7,174	△ 14,361	△ 6,730	△ 7,181	451	135	11,499
8年	△ 1,115	521	△ 732	△ 1,781	△ 1,337	2,539	△ 4,052	△ 1,890	△ 975	△ 915	△ 2,594	8,211
9年	6,357	5,826	1,819	△ 304	△ 275	377	△ 2,884	△ 1,641	△ 251	△ 1,390	△ 3,477	6,916
10年	5,756	4,076	2,731	826	△ 305	23	△ 2,395	△ 1,352	△ 682	△ 670	△ 1,371	3,523
11年	7,751	2,990	1,576	1,989	241	△ 96	△ 677	△ 1,610	222	△ 1,832	154	3,184
12年	8,921	4,780	2,417	1,590	861	△ 678	△ 480	△ 1,030	47	△ 1,077	△ 1,590	3,051
13年	9,562	4,638	1,987	1,743	413	△ 240	△ 217	△ 54	849	△ 903	△ 581	1,873
14年	6,179	2,263	1,551	1,658	116	11	△ 97	△ 654	304	△ 958	△ 449	1,780
15年	5,327	2,147	1,067	1,917	222	434	△ 561	△ 901	41	△ 942	△ 175	1,177
16年	4,228	2,737	1,125	1,239	△ 525	435	△ 460	△ 872	△ 88	△ 784	△ 1,369	1,918
17年	4,945	1,982	575	2,615	△ 281	671	△ 280	△ 741	△ 53	△ 688	△ 1,142	1,546
18年	3,075	1,114	635	1,840	227	138	△ 486	△ 1,561	△ 530	△ 1,031	△ 1,142	2,310
19年	980	△ 204	555	663	△ 44	137	△ 558	△ 1,037	△ 206	△ 831	△ 638	2,106
20年	3,310	1,279	608	1,519	866	△ 170	△ 594	△ 329	707	△ 1,036	△ 436	567
21年	3,436	532	1,171	1,423	369	380	△ 714	△ 66	705	△ 771	162	179
22年	842	603	687	937	△ 515	231	△ 317	△ 1,124	40	△ 1,164	263	77
23年	501	839	704	1,167	△ 491	△ 452	△ 595	△ 743	236	△ 979	△ 114	186
24年	△ 2,846	760	325	672	△ 873	△ 882	△ 1,423	△ 1,532	△ 305	△ 1,227	40	67
自然動態（自然増減数）												
震災前平均	3,372	705	△ 71	△ 93	△ 474	719	△ 393	611	△ 61	672	1,368	999
平成7年	△ 2,488	△ 972	△ 1,087	△ 534	△ 1,058	619	△ 1,335	△ 8	△ 546	538	960	927
8年	2,692	452	14	△ 260	△ 472	736	△ 271	420	△ 58	478	953	1,120
9年	2,500	458	△ 25	△ 231	△ 307	656	△ 310	327	△ 42	369	857	1,075
10年	2,277	748	37	△ 321	△ 312	516	△ 274	277	△ 37	314	696	910
11年	1,991	771	56	△ 312	△ 372	405	△ 225	266	29	237	495	907
12年	2,314	836	141	△ 156	△ 355	418	△ 237	148	△ 52	200	626	893
13年	1,814	823	139	△ 281	△ 208	195	△ 294	270	55	215	348	822
14年	1,859	1,005	125	△ 215	△ 277	148	△ 279	141	11	130	382	829
15年	1,272	824	34	△ 203	△ 314	203	△ 480	132	△ 1	133	364	712
16年	1,099	726	163	△ 118	△ 350	199	△ 459	△ 8	△ 77	69	292	654
17年	△ 5	648	40	△ 183	△ 455	—	△ 485	△ 101	△ 55	△ 46	△ 52	583
18年	236	655	46	△ 179	△ 344	△ 15	△ 450	△ 163	△ 143	△ 20	96	590
19年	△ 181	564	△ 28	△ 218	△ 426	74	△ 546	△ 104	△ 86	△ 18	△ 88	591
20年	△ 513	437	34	△ 161	△ 512	△ 29	△ 600	△ 198	△ 144	△ 54	△ 48	564
21年	△ 508	493	△ 15	△ 221	△ 439	△ 2	△ 610	△ 149	△ 93	△ 56	△ 34	469
22年	△ 1,479	407	38	△ 215	△ 591	△ 120	△ 604	△ 349	△ 137	△ 212	△ 311	266
23年	△ 1,642	267	△ 1	△ 128	△ 545	△ 197	△ 697	△ 312	△ 128	△ 184	△ 259	230
24年	△ 2,473	281	△ 114	△ 201	△ 615	△ 384	△ 839	△ 475	△ 225	△ 250	△ 345	219
社会動態（社会増減数）												
震災前平均	7,074	△ 13	△ 1,176	△ 1,190	△ 937	3,728	△ 1,359	△ 512	△ 659	147	△ 704	9,236
平成7年	△ 44,353	△ 16,358	△ 10,991	△ 5,495	△ 8,063	6,555	△ 13,026	△ 6,722	△ 6,635	△ 87	△ 825	10,572
8年	△ 3,807	69	△ 746	△ 1,521	△ 865	1,803	△ 3,781	△ 2,310	△ 917	△ 1,393	△ 3,547	7,091
9年	3,857	5,368	1,844	△ 73	32	△ 279	△ 2,574	△ 1,968	△ 209	△ 1,759	△ 4,334	5,841
10年	3,479	3,328	2,694	1,147	7	△ 493	△ 2,121	△ 1,629	△ 645	△ 984	△ 2,067	2,613
11年	5,760	2,219	1,520	2,301	613	△ 501	△ 452	△ 1,876	193	△ 2,069	△ 341	2,277
12年	6,607	3,944	2,276	1,746	1,216	△ 1,096	△ 243	△ 1,178	99	△ 1,277	△ 2,216	2,158
13年	7,748	3,815	1,848	2,024	621	△ 435	77	△ 324	794	△ 1,118	△ 929	1,051
14年	4,320	1,258	1,426	1,873	393	△ 137	182	△ 795	293	△ 1,088	△ 831	951
15年	4,055	1,323	1,033	2,120	536	231	△ 81	△ 1,033	42	△ 1,075	△ 539	465
16年	3,129	2,011	962	1,357	△ 175	236	△ 1	△ 864	△ 11	△ 853	△ 1,661	1,264
17年	4,950	1,334	535	2,798	174	671	205	△ 640	2	△ 642	△ 1,090	963
18年	2,839	459	589	2,019	571	153	△ 36	△ 1,398	△ 387	△ 1,011	△ 1,238	1,720
19年	1,161	△ 768	583	881	382	63	△ 12	△ 933	△ 120	△ 813	△ 550	1,515
20年	3,823	842	574	1,680	1,378	△ 141	6	△ 131	851	△ 982	△ 388	3
21年	3,944	39	1,186	1,644	808	382	△ 104	83	798	△ 715	196	△ 290
22年	2,321	196	649	1,152	76	351	287	△ 775	177	△ 952	574	△ 189
23年	2,143	572	705	1,295	54	△ 255	102	△ 431	364	△ 795	145	△ 44
24年	△ 373	479	439	873	△ 258	△ 498	△ 584	△ 1,057	△ 80	△ 977	385	△ 152

注）「震災前平均」は、平成2年～6年の年平均である。

社会増減数については、須磨区の本区と北須磨との間の移動数を含む数値により算出している。

1 概況

神戸市の平成24年の人口増減数は2,846人の減少となった。人口増減数は平成10年以降年々拡大し、平成13年には9,562人増と震災前平均(平成2年～6年の年平均。10,446人増)並みの増加を示した。しかし、その後平成14年からは概ね縮小傾向にあり、平成9年以降、はじめて減少した。

人口増減数を自然増減数と社会増減数に分けると、自然増減数は2,473人の減少となった。19年以降、6年連続減少しており、平成23年の1,642人減と比べ、減少幅も拡大している。一方、社会増減数は373人の減少となった。社会増減数は平成24年7月に外国人住民の登録制度が変わったこともあり、平成9年以降、はじめて減少した。

人口増減数と人口の推移を長期的にみると、戦争の影響から昭和20年に38万人まで落ち込んでいた本市の人口は、終戦後の大幅な社会増加に支えられて急速に増加し、昭和31年には100万人を突破して、戦前の水準を回復した。

昭和30年代に入ると増加の速度は落ち着きを見せ始めるが、それでも昭和40年代にかけて、毎年1万～3万人の人口増加があり、この時期は概ね5年で10万人増加するペースであった。昭和50年代の前半は人口の伸び悩みが見られたが、後半には再び増加基調となり、平成6年まで年1万人程度の増加が続いた。そして、昭和59年に140万人、平成4年には150万人に達し、平成7年の震災直前は152万人を超えた。

平成7年の阪神・淡路大震災は、神戸市に戦後初めての人口減をもたらし、一時142万人まで減少した。しかし、復興の進展に伴い人口増加が見られ、平成13年には再び150万人を超えた。平成16年11月には152万977人となり、震災直前人口である152万365人を初めて超えた。

平成24年中は平成7年の阪神・淡路大震災以降初めて人口減となった。平成25年1月1日現在で154万1,749人となった。

図1 人口増減数の推移

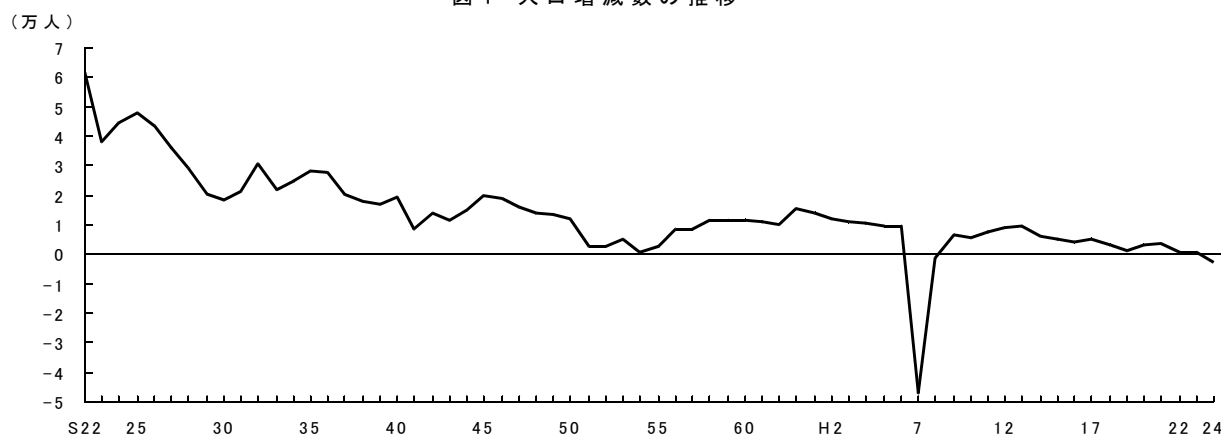
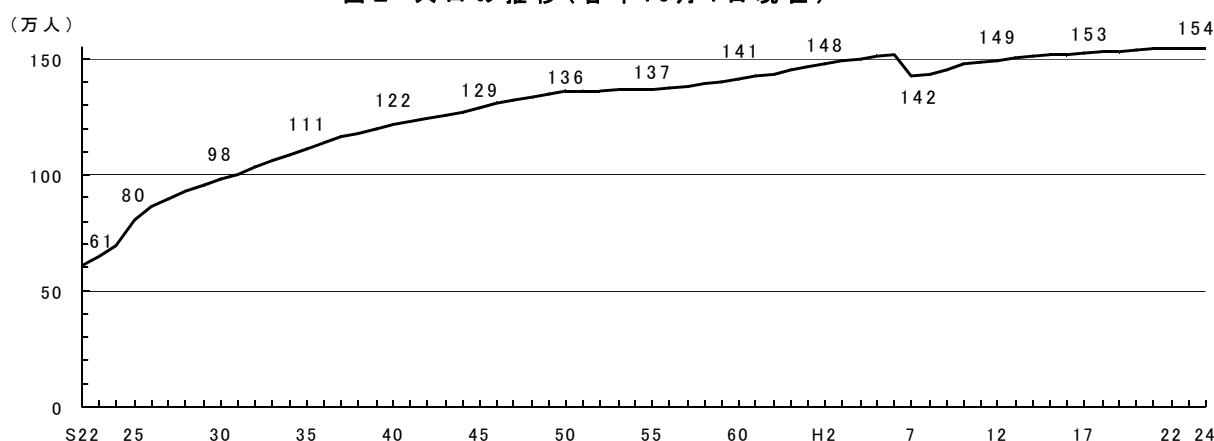


図2 人口の推移(各年10月1日現在)



2 区別の状況

平成24年中の区別の人口の動きは、概ね前年までの傾向に沿っている。

東灘区は平成19年に人口が減少したが、その後5年連続で増加している。また、灘区は16年、中央区は15年連続で人口が増加している。東灘区では自然増減数、社会増減数ともに増加している。灘区、中央区では自然増減数は減少しているが、社会増減数の増加がそれを上回り、人口は増加している。

兵庫区、北区、長田区、須磨区は自然増減数及び社会増減数ともに減少している。

須磨区のうち本区の人口は、4年連続で人口が増加したものの、24年は減少となった。北須磨は8年以降人口減少が続いており、須磨区全体では人口減少となっている。

垂水区では自然増減数は減少しているが、社会増減数の増加がそれを上回り、人口は増加している。

西区では社会増減数が21年以降減少しているが、自然増減数の増加がそれを上回っており、人口は増加している。

表2 平成24年月別人口の動き

年 次	全市	東灘区	灘 区	中央区	兵庫区	北 区	長田区	須磨区	本区	北須磨	垂水区	西 区
人 口 増 減 数												
平成24年1月中	△ 566	△ 3	50	△ 52	△ 141	△ 58	△ 107	△ 141	△ 45	△ 96	△ 159	45
2月中	△ 845	△ 120	△ 13	△ 131	△ 71	△ 144	△ 154	△ 165	△ 119	△ 46	△ 50	3
3月中	△ 1,588	△ 248	△ 25	123	△ 1	△ 488	△ 102	△ 321	△ 160	△ 161	△ 67	△ 459
4月中	2,524	755	353	533	118	86	△ 74	49	106	△ 57	432	272
5月中	△ 169	△ 30	19	133	△ 44	△ 59	△ 77	△ 54	△ 8	△ 46	△ 103	46
6月中	△ 352	△ 19	△ 3	△ 29	△ 95	△ 14	△ 25	△ 108	△ 13	△ 95	△ 22	△ 37
7月中	△ 1,284	△ 180	△ 50	△ 364	△ 206	△ 9	△ 164	△ 195	△ 19	△ 176	△ 107	△ 9
8月中	△ 151	93	9	△ 18	△ 94	16	△ 153	△ 80	32	△ 112	△ 14	90
9月中	△ 36	155	△ 48	42	△ 19	△ 29	3	△ 127	△ 19	△ 108	△ 57	44
10月中	666	298	114	276	△ 13	△ 22	△ 165	△ 51	34	△ 85	51	178
11月中	△ 564	△ 3	△ 16	119	△ 201	△ 128	△ 211	△ 116	△ 8	△ 108	△ 18	10
12月中	△ 481	62	△ 65	40	△ 106	△ 33	△ 194	△ 223	△ 86	△ 137	154	△ 116
年 合 計	△ 2,846	760	325	672	△ 873	△ 882	△ 1,423	△ 1,532	△ 305	△ 1,227	40	67
自 然 増 減 数												
平成24年1月中	△ 403	△ 4	△ 34	△ 51	△ 86	△ 67	△ 59	△ 40	△ 20	△ 20	△ 64	2
2月中	△ 373	25	△ 24	△ 38	△ 61	△ 62	△ 108	△ 37	△ 19	△ 18	△ 65	△ 3
3月中	△ 220	△ 11	△ 4	△ 23	△ 42	△ 14	△ 53	△ 64	△ 39	△ 25	△ 20	11
4月中	△ 242	20	△ 39	△ 10	△ 53	△ 44	△ 67	△ 33	△ 25	△ 8	△ 46	30
5月中	△ 316	33	△ 9	△ 30	△ 51	△ 54	△ 83	△ 63	△ 25	△ 38	△ 72	13
6月中	△ 108	36	6	△ 18	△ 46	△ 19	△ 44	△ 38	△ 15	△ 23	△ 15	30
7月中	△ 131	32	△ 5	△ 3	△ 40	△ 23	△ 61	△ 41	△ 14	△ 27	△ 9	19
8月中	12	56	14	14	△ 27	—	△ 77	△ 30	△ 19	△ 11	△ 14	76
9月中	△ 45	60	△ 24	△ 18	△ 26	△ 15	△ 43	△ 16	2	△ 18	22	15
10月中	△ 136	23	24	5	△ 79	△ 36	△ 63	△ 27	△ 9	△ 18	△ 23	40
11月中	△ 210	9	△ 23	2	△ 45	△ 4	△ 99	△ 25	△ 12	△ 13	△ 23	△ 2
12月中	△ 301	2	4	△ 31	△ 59	△ 46	△ 82	△ 61	△ 30	△ 31	△ 16	△ 12
年 合 計	△ 2,473	281	△ 114	△ 201	△ 615	△ 384	△ 839	△ 475	△ 225	△ 250	△ 345	219
社 会 増 減 数												
平成24年1月中	△ 163	1	84	△ 1	△ 55	9	△ 48	△ 101	△ 25	△ 76	△ 95	43
2月中	△ 472	△ 145	11	△ 93	△ 10	△ 82	△ 46	△ 128	△ 100	△ 28	15	6
3月中	△ 1,368	△ 237	△ 21	146	41	△ 474	△ 49	△ 257	△ 121	△ 136	△ 47	△ 470
4月中	2,766	735	392	543	171	130	△ 7	82	131	△ 49	478	242
5月中	147	△ 63	28	163	7	△ 5	6	9	17	△ 8	△ 31	33
6月中	△ 244	△ 55	△ 9	△ 11	△ 49	5	19	△ 70	2	△ 72	△ 7	△ 67
7月中	△ 1,153	△ 212	△ 45	△ 361	△ 166	14	△ 103	△ 154	△ 5	△ 149	△ 98	△ 28
8月中	△ 163	37	△ 5	△ 32	△ 67	16	△ 76	△ 50	51	△ 101	—	14
9月中	9	95	△ 24	60	7	△ 14	46	△ 111	△ 21	△ 90	△ 79	29
10月中	802	275	90	271	66	14	△ 102	△ 24	43	△ 67	74	138
11月中	△ 354	△ 12	7	117	△ 156	△ 124	△ 112	△ 91	4	△ 95	5	12
12月中	△ 180	60	△ 69	71	△ 47	13	△ 112	△ 162	△ 56	△ 106	170	△ 104
年 合 計	△ 373	479	439	873	△ 258	△ 498	△ 584	△ 1,057	△ 80	△ 977	385	△ 152

注) 社会増減数については、須磨区の本区と北須磨との間の移動数を含む数値により算出している。

図3-1 人口増減数の推移(東灘区, 灘区, 中央区)

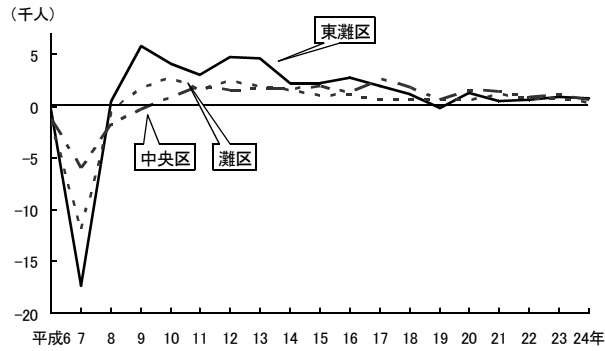


図4-1 人口数の推移(東灘区, 灘区, 中央区)

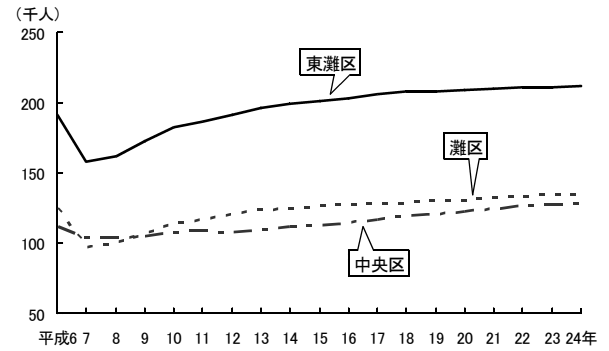


図3-2 人口増減数の推移(兵庫区, 長田区, 須磨区)

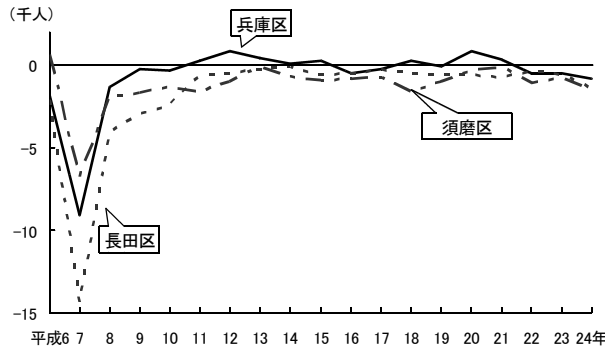


図4-2 人口数の推移(兵庫区, 長田区, 須磨区)

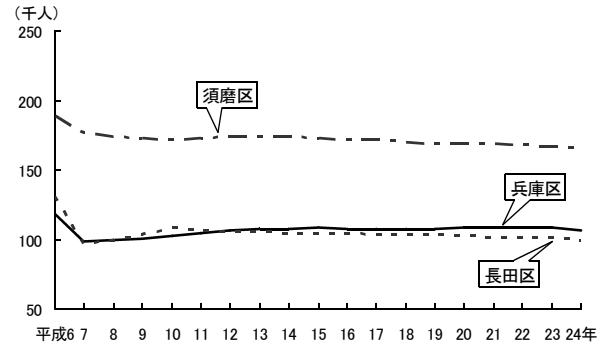


図3-3 人口増減数の推移(北区, 垂水区, 西区)

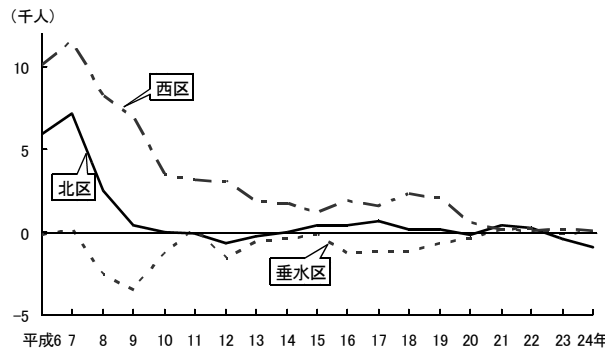


図4-3 人口数の推移(北区, 垂水区, 西区)

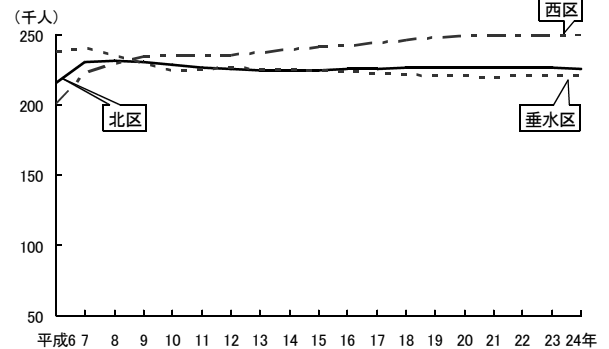


表3 震災からの人口の状況

		H7. 1. 1	H7. 10. 1	H12. 10. 1	H17. 10. 1	H22. 10. 1	H25. 1. 1	震災直前 (a)との比較	
		震災直前推計	7年国勢調査	12年国勢調査	17年国勢調査	22年国勢調査	推計人口	増減 (f - a)	比率 (f/a)
		(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)		
全	市	1, 520, 365	1, 423, 792	1, 493, 398	1, 525, 393	1, 544, 200	1, 541, 749	21, 384	101. 4%
	東 灘 区	191, 716	157, 599	191, 309	206, 037	210, 408	212, 173	20, 457	110. 7%
	灘 区	124, 538	97, 473	120, 518	128, 050	133, 451	134, 564	10, 026	108. 1%
	中 央 区	111, 195	103, 711	107, 982	116, 591	126, 393	128, 326	17, 131	115. 4%
	兵 庫 区	117, 558	98, 856	106, 897	106, 985	108, 304	106, 780	△ 10, 778	90. 8%
	北 区	217, 166	230, 473	225, 184	225, 945	226, 836	225, 617	8, 451	103. 9%
	長 田 区	129, 978	96, 807	105, 464	103, 791	101, 624	99, 407	△ 30, 571	76. 5%
	須 磨 区	188, 949	176, 507	174, 056	171, 628	167, 475	164, 933	△ 24, 016	87. 3%
	本 区	78, 908	63, 255	70, 016	71, 405	72, 692	72, 591	△ 6, 317	92. 0%
	北 須 磨	110, 041	113, 252	104, 040	100, 223	94, 783	92, 342	△ 17, 699	83. 9%
	垂 水 区	237, 735	240, 203	226, 230	222, 729	220, 411	220, 399	△ 17, 336	92. 7%
	西 区	201, 530	222, 163	235, 758	243, 637	249, 298	249, 550	48, 020	123. 8%

注) 「推計人口」とは、直近国勢調査結果を基礎に、毎月の住民基本台帳(平成24年7月8日までは住民基本台帳及び外国人登録法)の届出数を加減し算出したものである。

Ⅱ 自然動態

1 概況

平成24年中の自然増減数は2,473人減となった。自然増減数は、震災のあった平成7年を除き、長く増加傾向が続いていたが、17年に減少し、18年に再び増加したものの、19年以降6年連続で減少し、減少幅も拡大している。

出生数は12,636人で前年より318人減少した。一方、死亡数は15,109人で前年より513人増加しており年々増加傾向にある。

自然増減率をみると、出生率は8.19‰（パーミル：人口千人に対する割合）で、前年を0.20ポイント下回った。死亡率は前年を0.35ポイント上回り9.80‰となった。出生数の伸びを死亡数の伸びが上回り、自然増減率は△1.60‰と、前年を0.54ポイント下回り6年連続で減少となった。

表4 自然動態及び自然動態率

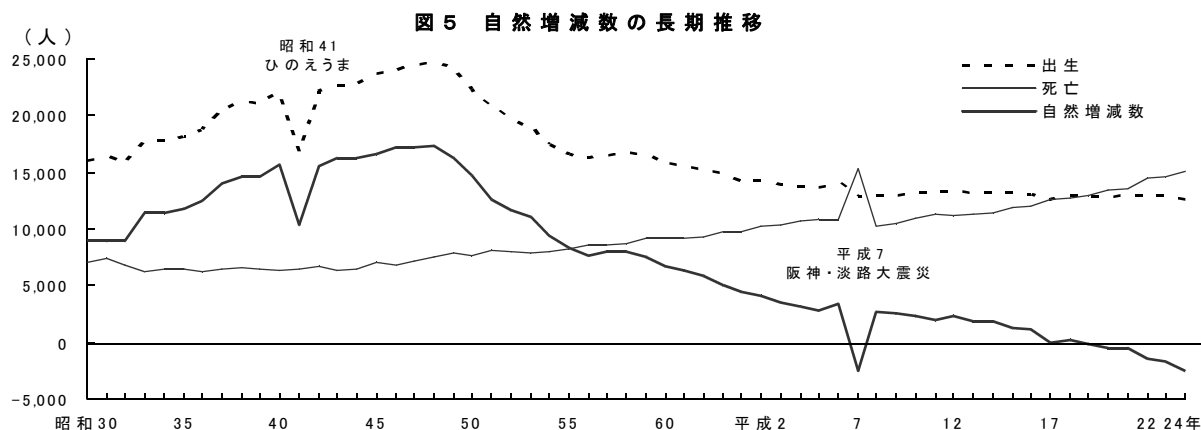
(単位：人，‰)

年次・区	自然増減数	出生数	死亡数	自然増減率	出生率	死亡率	a) 人口 (10月1日現在)
震災前平均	3,372	13,943	10,571	2.25	9.30	7.05	1,498,720
平成7年	△ 2,488	12,863	15,351	△ 1.75	9.03	10.78	1,423,792
8年	2,692	12,943	10,251	1.88	9.02	7.15	1,434,572
9年	2,500	12,921	10,421	1.72	8.88	7.16	1,454,632
10年	2,277	13,164	10,887	1.54	8.92	7.38	1,475,342
11年	1,991	13,238	11,247	1.34	8.92	7.58	1,483,655
12年	2,314	13,460	11,146	1.55	9.01	7.46	1,493,398
13年	1,814	13,110	11,296	1.21	8.72	7.51	1,503,480
14年	1,859	13,219	11,360	1.23	8.75	7.52	1,510,662
15年	1,272	13,182	11,910	0.84	8.69	7.86	1,516,155
16年	1,099	13,062	11,963	0.72	8.59	7.87	1,520,267
17年	△ 5	12,540	12,545	△ 0.00	8.22	8.22	1,525,393
18年	236	12,984	12,748	0.15	8.49	8.33	1,529,817
19年	△ 181	12,792	12,973	△ 0.12	8.35	8.47	1,532,428
20年	△ 513	12,878	13,391	△ 0.33	8.38	8.72	1,536,433
21年	△ 508	12,981	13,489	△ 0.33	8.42	8.75	1,541,214
22年	△ 1,479	12,979	14,458	△ 0.96	8.40	9.36	1,544,200
23年	△ 1,642	12,954	14,596	△ 1.06	8.39	9.45	1,544,496
平成24年	△ 2,473	12,636	15,109	△ 1.60	8.19	9.80	1,542,128
東灘区	281	1,907	1,626	1.33	9.00	7.68	211,816
中央区	△ 114	1,184	1,298	△ 0.85	8.80	9.65	134,531
兵庫区	△ 201	1,139	1,340	△ 1.57	8.91	10.48	127,891
北区	△ 615	859	1,474	△ 5.74	8.02	13.76	107,100
長田区	△ 384	1,703	2,087	△ 1.70	7.54	9.24	225,800
須磨区	△ 839	673	1,512	△ 8.39	6.73	15.12	99,977
本区	△ 475	1,198	1,673	△ 2.87	7.25	10.12	165,323
北須磨区	△ 225	592	817	△ 3.10	8.15	11.25	72,651
垂水区	△ 250	606	856	△ 2.70	6.54	9.24	92,672
西区	△ 345	1,916	2,261	△ 1.57	8.70	10.27	220,212
	219	2,057	1,838	0.88	8.25	7.37	249,478

注) 自然増減率、出生率、死亡率は、各年10月1日現在の人口1,000人当たりの率である。

a) 平成7年、12年、17年、22年は国勢調査結果、10年は被災地人口実態調査結果、それ以外は推計人口である。

自然増減数の長期的な推移をみると、昭和33年以降、出生数はほぼ毎年増加し、死亡数は横ばいの状態が続いていたため、自然増減数は出生数に比例して増加した。昭和45年を過ぎると、それまで横ばいで推移していた死亡数が、徐々に増加傾向を示すようになった。また、出生数は第2次ベビーブーム期の昭和48年をピークに減少に転じ、自然増減数の減少が始まった。震災後の出生数は横ばいが続き、平成17年に12,540人まで減少したものの、その後は小幅に増減を繰り返している。一方、震災後の死亡数は13年以降12年連続増加しており、死亡数が出生数を上回っているため、24年の自然増減数は6年連続減少となった。



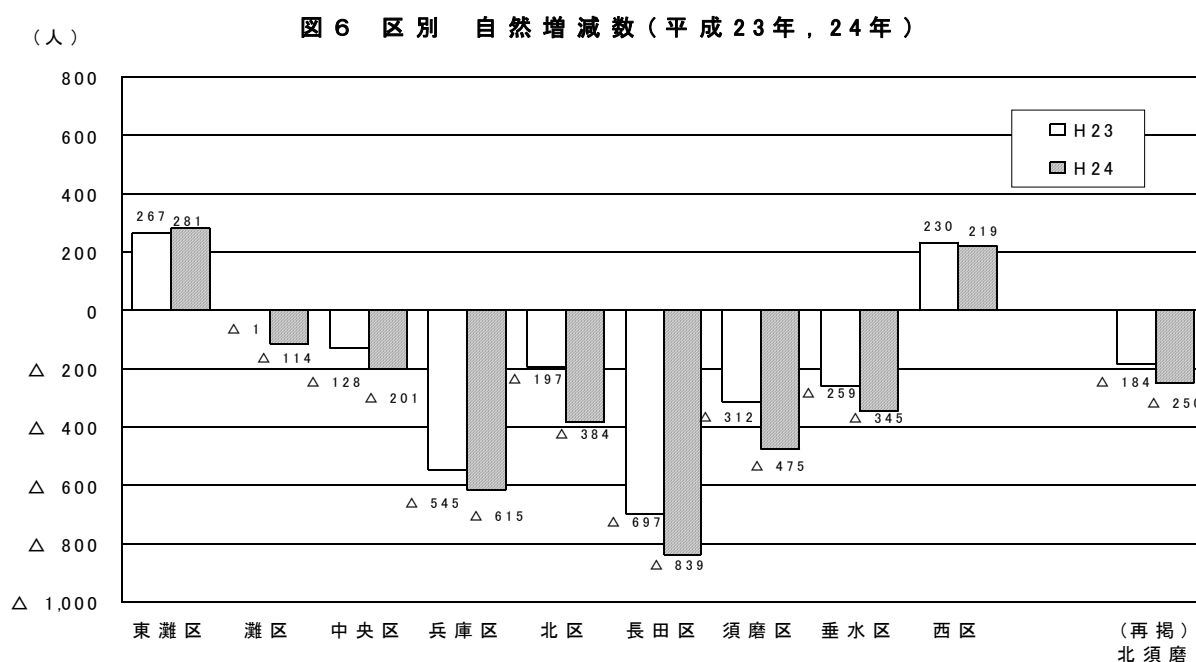
区別にみると、最も自然増減数が多いのは東灘区の281人の増加で、次いで西区が219人となっている。自然増減数が増加したのはこの2区のみで、他の区では減少している。

最も減少しているのは長田区の839人で、兵庫区の615人がこれに続いている。また、この2区に中央区を加えた3区は震災前から減少が続いている。

灘区は114人減少し、2年連続減少となった。

須磨区のうち本区は225人減、北須磨250人減となり、須磨区全体で475人減少となった。本区は平成15年から10年連続、北須磨は17年から8年連続減少となった。

垂水区は345人の減少となり、19年以降6年連続減少となった。北区でも384人減少し、20年以降5年連続減少となった。



2 出生

平成24年の出生数は12,636人で、前年の12,954人に比べ318人減少した。
また、出生率は8.19‰で、前年の8.39‰より0.20ポイント下回った。
出生率の推移をみると、昭和30年代から40年代にかけて16‰台から18‰台へと上昇傾向にあった。しかし、昭和48年の第2次ベビーブーム期をピークに低下に転じ、昭和60年代には10‰台まで低下した。
その後もゆるやかな低下傾向が続き、平成9年以降は8‰台で推移しているが、低下傾向が続いている。平成4年の9.19‰と比べると、20年間で1.00ポイント低下している。
このような出生率の低下傾向は、全国でも同様にみられるが、神戸市の出生率は、過去20年間常に全国値を下回っている。

区別にみると、出生率の高い順に東灘区（9.00‰）、中央区（8.91‰）、灘区（8.80‰）となっている。一方、出生率が低いのは、長田区（6.73‰）、須磨区（7.25‰）、北区（7.54‰）である。
区別の出生率を20年前の平成4年及び10年前の平成14年と比較すると、北区、須磨区、垂水区、西区では低下を続けている。東灘区、灘区、兵庫区、長田区では、平成4年から14年にかけては上昇したが、平成14年から24年にかけては低下している。中央区では、平成4年から14年にかけては低下したが、平成14年から24年にかけては上昇している。平成24年の出生率は、灘区、中央区、兵庫区を除く6区で平成4年を下回っている。

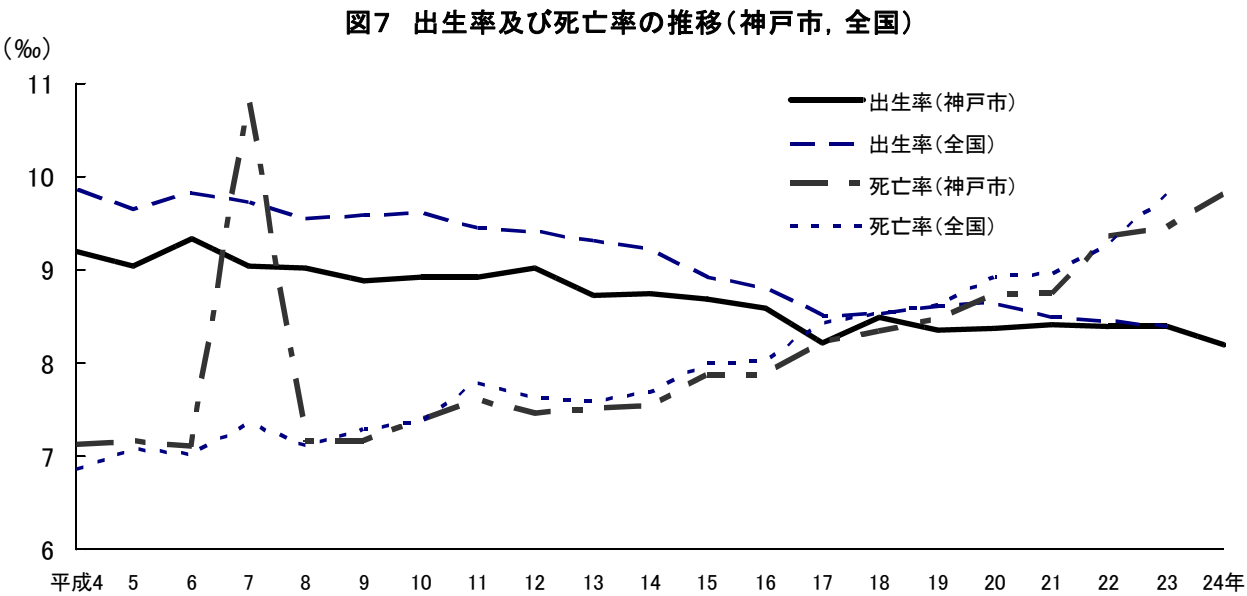


表5 出生率、死亡率の推移（神戸市、全国）

(単位：‰)

年 次	平成 4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	出 生 率																				
神戸市	9.19	9.03	9.33	9.03	9.02	8.88	8.92	8.92	9.01	8.72	8.75	8.69	8.59	8.22	8.49	8.35	8.38	8.42	8.40	8.39	8.19
全 国	9.87	9.65	9.83	9.73	9.55	9.58	9.60	9.45	9.41	9.31	9.23	8.91	8.81	8.50	8.53	8.60	8.65	8.49	8.46	8.40	…
	死 亡 率																				
神戸市	7.12	7.16	7.10	10.78	7.15	7.16	7.38	7.58	7.46	7.51	7.52	7.86	7.87	8.22	8.33	8.47	8.72	8.75	9.36	9.45	9.80
全 国	6.86	7.07	7.02	7.36	7.12	7.30	7.37	7.78	7.62	7.59	7.69	8.01	8.01	8.44	8.53	8.62	8.92	8.95	9.28	9.80	…

資料：総務省統計局『人口推計月報』（全国）
注）平成18年から21年の値は、平成22年国勢調査結果（確定数）に基づき補間補正した人口により算出している。
平成24年全国数値は未定。

3 死亡

平成24年の死亡数は15,109人で、前年の14,596人と比べ513人増加した。

また、死亡率は9.80‰で、前年の9.45‰より0.35ポイント上昇した。

死亡率の推移をみると、昭和30年代以降おおむね5‰台で横ばいに推移していたが、昭和55年に6‰台、平成4年には7‰台、17年からは8‰台と上昇傾向が続いており、22年からは9‰台となった。この20年間では、平成4年の7.12‰から2.68ポイント上昇している。

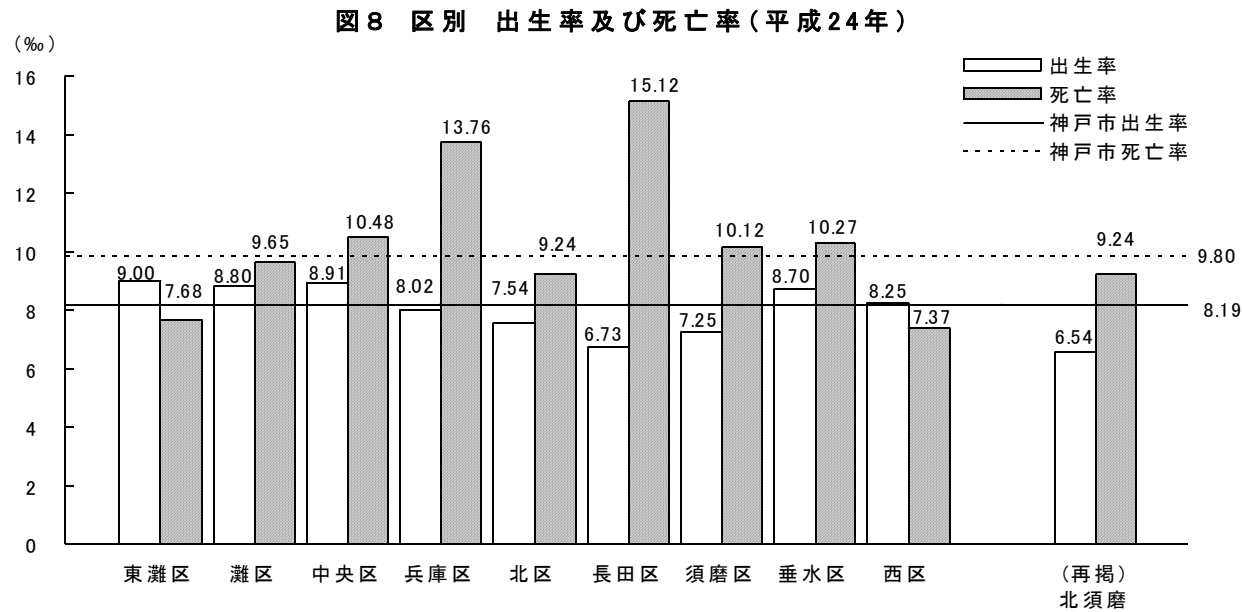
死亡率の上昇傾向は、全国でも同様である。なお、昭和56年以降全国値をほぼ上回っていた神戸市の死亡率は、平成11年以降全国値を下回る傾向が続いている。

区別にみると、死亡率の高い順に長田区（15.12‰）、兵庫区（13.76‰）、中央区（10.48‰）となっている。さらに、東灘区と西区を除いた7区では死亡率が出生率を大きく上回っている。一方、死亡率が低いのは、西区（7.37‰）、東灘区（7.68‰）である。

区別の死亡率を20年前の平成4年及び10年前の14年と比較すると、中央区、北区、須磨区、垂水区、西区では4年から上昇を続けている。東灘区、灘区、兵庫区、長田区では4年から14年にかけて減少し、14年から24年にかけては上昇している。24年の死亡率は、全区で4年の率を上回っている。

表 6 区別 出生率と死亡率の推移

(単位：‰)											
年 次	東灘区	灘 区	中央区	兵庫区	北 区	長田区	須磨区	本区	北須磨	垂水区	西 区
出 生 率											
平成4年	9.62	7.95	7.92	6.74	9.01	7.43	9.17	7.68	10.28	11.33	10.75
14年	11.03	9.20	7.54	8.30	7.58	7.75	8.21	8.92	7.71	9.15	8.96
24年	9.00	8.80	8.91	8.02	7.54	6.73	7.25	8.15	6.54	8.70	8.25
死 亡 率											
平成4年	6.11	8.39	9.08	10.97	5.81	11.04	6.05	8.92	3.94	5.56	5.26
14年	5.98	8.20	9.47	10.87	6.92	10.42	7.39	8.77	6.43	7.45	5.49
24年	7.68	9.65	10.48	13.76	9.24	15.12	10.12	11.25	9.24	10.27	7.37



Ⅲ 社会動態

1 概況

平成24年中の社会増減数は373人の減少となった。平成24年7月に外国人住民の登録制度が変わったこともあり、平成9年以降、はじめて減少した。

転入数は77,964人で、そのうち市外からの転入者数は49,450人であった。一方、転出者数は78,337人で、そのうち市外への転出数は48,181人であった。

社会増減率をみると、転入率は50.56%で、うち市外からは32.07%、転出率は50.80%で、うち市外へは31.24%と、転入率は前年より0.37ポイント低下し、転出率は前年より1.26ポイント上昇している。社会増減率は△0.24%で前年の1.39%より1.63ポイント低下した。

表 7 社会動態及び社会動態率

(単位：人、%)

年次・区	社会増減数	転入	うち市外から	転出	うち市外へ	社会増減率	転入率	うち市外から	転出率	うち市外へ	a) 人口 (10月1日現在)
震災前平均	7,074	103,810	64,346	96,736	57,205	4.72	69.27	42.93	64.55	38.17	1,498,720
平成7年	△ 44,353	111,332	53,551	155,685	97,787	△ 31.15	78.19	37.61	109.35	68.68	1,423,792
8年	△ 3,807	109,014	60,294	112,821	64,625	△ 2.65	75.99	42.03	78.64	45.05	1,434,572
9年	3,857	112,757	63,313	108,900	59,487	2.65	77.52	43.53	74.86	40.89	1,454,632
10年	3,479	112,261	61,527	108,782	58,059	2.36	76.09	41.70	73.73	39.35	1,475,342
11年	5,760	104,957	59,655	99,197	53,948	3.88	70.74	40.21	66.86	36.36	1,483,655
12年	6,607	100,251	60,005	93,644	53,515	4.42	67.13	40.18	62.71	35.83	1,493,398
13年	7,748	95,641	59,607	87,893	51,911	5.15	63.61	39.65	58.46	34.53	1,503,480
14年	4,320	89,755	56,238	85,435	51,939	2.86	59.41	37.23	56.55	34.38	1,510,662
15年	4,055	90,174	56,098	86,119	52,035	2.67	59.48	37.00	56.80	34.32	1,516,155
16年	3,129	86,887	54,656	83,758	51,620	2.06	57.15	35.95	55.09	33.95	1,520,267
17年	4,950	85,774	54,997	80,824	50,098	3.25	56.23	36.05	52.99	32.84	1,525,393
18年	2,839	86,088	54,009	83,249	51,268	1.86	56.27	35.30	54.42	33.51	1,529,817
19年	1,161	80,789	51,920	79,628	50,760	0.76	52.72	33.88	51.96	33.12	1,532,428
20年	3,823	82,648	53,098	78,825	49,445	2.49	53.79	34.56	51.30	32.18	1,536,433
21年	3,944	82,355	52,748	78,411	49,034	2.56	53.44	34.22	50.88	31.82	1,541,214
22年	2,321	80,214	50,535	77,893	48,104	1.50	51.95	32.73	50.44	31.15	1,544,200
23年	2,143	78,657	50,290	76,514	47,949	1.39	50.93	32.56	49.54	31.05	1,544,496
平成24年	△ 373	77,964	49,450	78,337	48,181	△ 0.24	50.56	32.07	50.80	31.24	1,542,128
東灘区	479	12,506	9,283	12,027	9,044	2.26	59.04	43.83	56.78	42.70	211,816
灘区	439	8,278	5,250	7,839	4,817	3.26	61.53	39.02	58.27	35.81	134,531
中央区	873	12,401	7,927	11,528	6,726	6.83	96.97	61.98	90.14	52.59	127,891
兵庫区	△ 258	6,849	3,682	7,107	3,232	△ 2.41	63.95	34.38	66.36	30.18	107,100
北区	△ 498	7,608	5,295	8,106	5,582	△ 2.21	33.69	23.45	35.90	24.72	225,800
長田区	△ 584	4,753	2,037	5,337	2,351	△ 5.84	47.54	20.37	53.38	23.52	99,977
須磨区	△ 1,057	6,394	3,251	7,451	3,869	△ 6.39	38.68	19.66	45.07	23.40	165,323
本区	△ 80	3,568	1,687	3,648	1,743	△ 1.10	49.11	23.22	50.21	23.99	72,651
北須磨	△ 977	3,302	1,564	4,279	2,126	△ 10.54	35.63	16.88	46.17	22.94	92,672
垂水区	385	9,254	5,789	8,869	5,494	1.75	42.02	26.29	40.27	24.95	220,212
西区	△ 152	9,921	6,936	10,073	7,066	△ 0.61	39.77	27.80	40.38	28.32	249,478

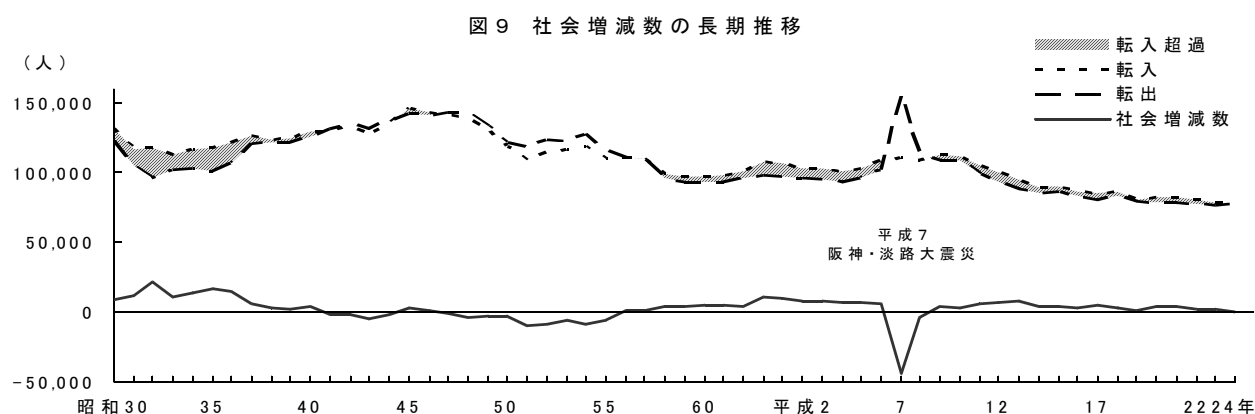
注) 社会増減率は各年10月1日現在の人口1,000人当たりの率である。

各年の転入・転出数には、同一区域内での本区、支所、出張所相互間の数値は含んでいない。ただし、須磨区のうち本区と北須磨については

本区・出張所間の移動数を含む数値となっている。

a) 平成7年、12年、17年、22年は国勢調査結果、10年は被災地人口実態調査結果、それ以外は推計人口である。

社会増減数の長期的な推移をみると、昭和30年代は社会増減数が6年連続で1万人以上の増加になるなど、大幅な転入超過で推移していた。昭和40年代に入ると、転出数の増加により社会増減数は伸び悩みの状態となり、特に昭和40年代後半から50年代前半にかけては、社会増減数が減少している状態が9年間続いた。その後、ニュータウン開発等により市内の住宅供給が活発になると、転出数は昭和54年を境に減少し、56年に再び転入超過となった。その後は転入数、転出数とも横ばいで推移し、年間4,000人から10,000人の転入超過が続いていたが、平成7年の震災では4万人を超える転出超過となった。9年以降は再び転入超過となり、増加幅も年々拡大し、13年には震災前平均の7,074人を超えた。しかし、14年以降は転入超過が続いていたものの増加幅は縮小傾向にあり、24年は減少となった。



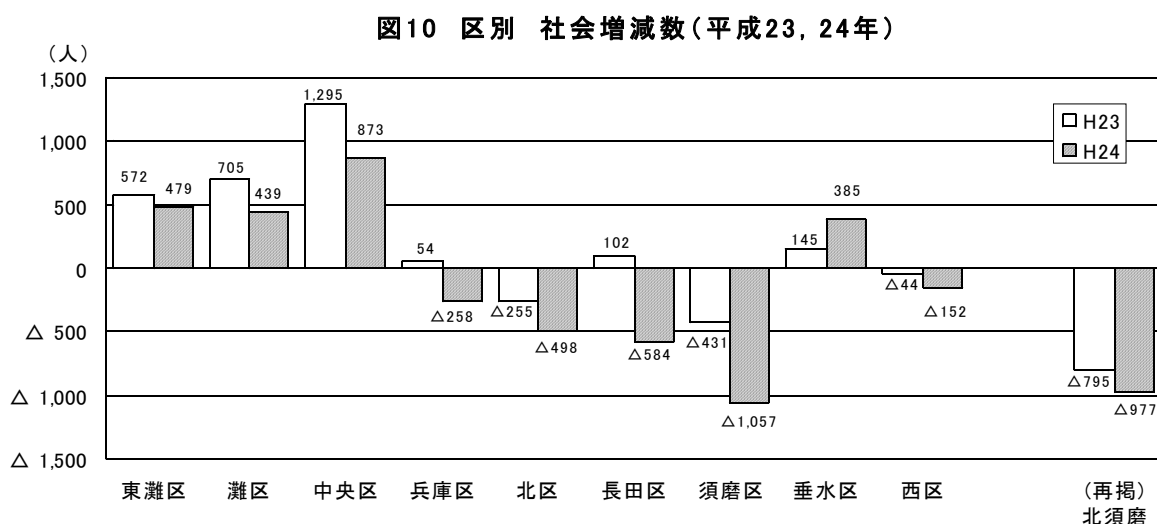
区別にみると、中央区の873人が最も多く、5年連続増加している。次いで東灘区479人、灘区439人、垂水区385人と4区で増加している。

東灘区、灘区、中央区の東部3区は震災前は減少傾向にあり、震災の影響を受けさらに大きく減少したが、震災後は3区とも増加基調にある。垂水区は一貫して社会増減数の減が続いていたが、平成21年から4年連続増加となっている。

兵庫区は16年を除き9年から社会増減数の増加が続いたが、24年は258人の減少となった。

長田区は小幅で増減を繰り返しており、24年は584人の減少となった。

北区、須磨区、西区では社会増減数が減少した。北区は20年に6年ぶりに社会増減数が減少したが、その後は社会増減数が増加した。24年は498人減となり、2年連続減少となった。須磨区のうち本区は80人、北須磨は977人の減少となり、須磨区全体で1,057人の減少となり、3年連続で減少となった。西区では152人の減となり、4年連続減少となった。



2 神戸市内の人口移動状況

神戸市内を市街地（東灘区，灘区，中央区，兵庫区，長田区，須磨本区）と郊外（北須磨，垂水区，北区，西区）に2分し，両地域間の人口移動をみる。

平成6年までは，市街地は郊外に対して年間約6,000人の転出超過となっていた。この頃は，西区や北区のニュータウンへの入居が本格化した時期であり，バブルで地価が高騰したことも重なり，人口は市街地から郊外へ流出する傾向にあった。

平成7年は震災の影響で，被害の大きかった市街地から比較的被害の小さかった郊外への急激な人口流出が起きた。

平成8年以降は，郊外へ避難していた市民が市街地に戻ってきたことなどにより市街地の転出超過幅が縮小し，11年に転入超過に転じたものの，12年の1,936人をピークに転入超過幅は縮小し，19年には9年ぶりに市街地からの転出超過となった。20年は再び市街地への転入超過となり，超過幅も1,000人を超えた。以降，24年まで5年連続で市街地への転入超過となっており，24年は312人であった。

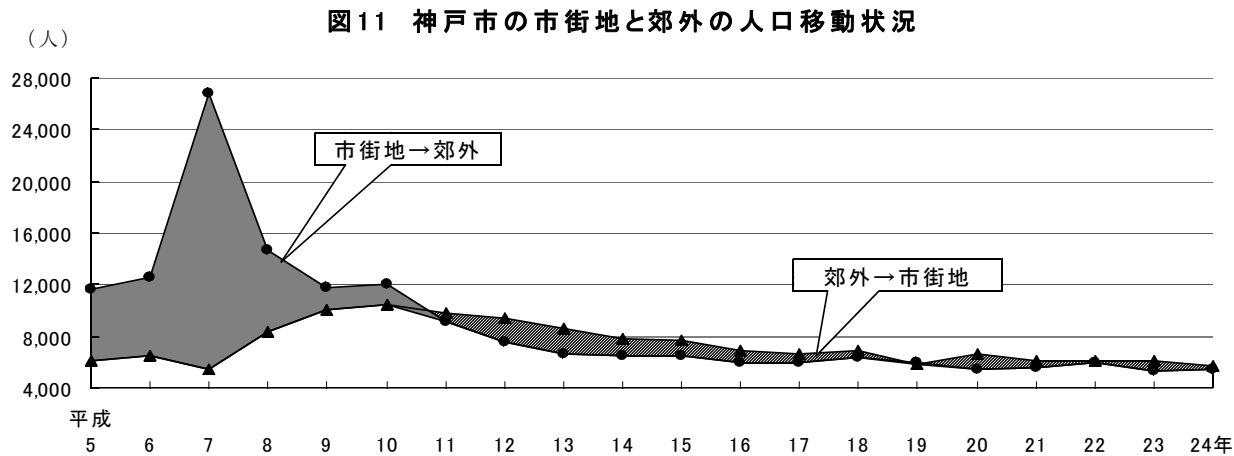


表8 神戸市の市街地と郊外の人口移動状況

人口移動	平成5	6	7	8	9	10	11	12	13	14年
郊外→市街地	6,095	6,532	5,515	8,392	10,030	10,524	9,792	9,433	8,571	7,864
市街地→郊外	11,672	12,513	26,773	14,667	11,727	12,005	9,163	7,497	6,672	6,440
市街地/転入超過	△ 5,577	△ 5,981	△ 21,258	△ 6,275	△ 1,697	△ 1,481	629	1,936	1,899	1,424

人口移動	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24年
郊外→市街地	7,649	6,918	6,684	6,943	5,895	6,622	6,172	6,118	6,100	5,759
市街地→郊外	6,525	6,010	6,042	6,373	5,960	5,462	5,562	5,933	5,302	5,447
市街地/転入超過	1,124	908	642	570	△ 65	1,160	610	185	798	312

資料：住民基本台帳法（平成24年7月8日までは住民基本台帳法及び外国人登録法）の規定に基づく届出数

3 相手地域別の状況

ほとんどの地域に対して転入超過となっており、概ね前年までの傾向が続いている。

阪神間6市及び大阪府に対して、2年連続転出超過となっている。一方、東日本への転出超過は依然として続いているが、平成23年は東日本大震災の影響からか超過幅は22年よりも大きく縮小したものの、24年は転出超過幅が震災前までには戻っていないが23年より拡大した。国外に対する転入超過は23年には転出超過となっていたが、再び転入超過となった。

(1) 阪神間6市

936人の転出超過となった。平成14年から転出超過傾向にある。24年は2年連続転出超過となり、全区で転出超過となっている。

区別にみると、転出超過数が最も多かったのは西区の213人、次いで東灘区の212人、須磨区の186人と続く。

※阪神間6市・・・芦屋、西宮、宝塚、尼崎、伊丹、川西の各市

(2) 東播臨海部

438人の転入超過となった。前年と比べると、転入超過数は234人増加した。平成11年以降、転入超過となっている。地域別では加古川市が最も多く、186人の転入超過となった。一方、加古郡に対してのみ転出超過となった。

区別にみると、転入超過数が最も多かったのは西区の167人である。一方、転出超過数が最も多いのは須磨区の35人である。

※東播臨海部・・・明石、加古川、高砂の各市と加古郡（稲美町、播磨町）

(3) 三木・小野・三田

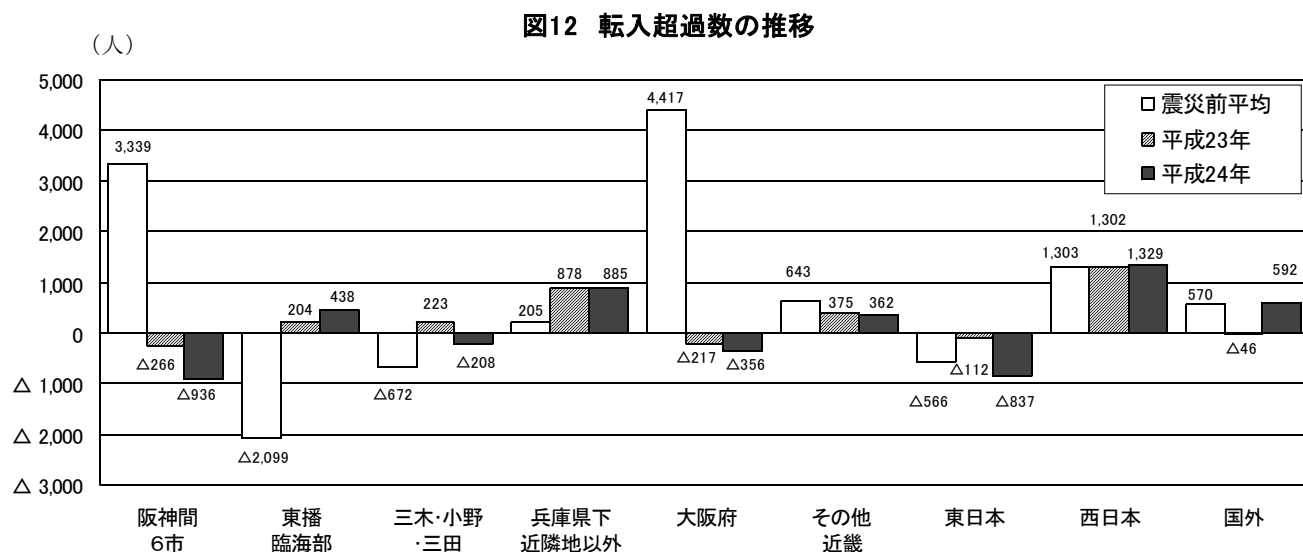
208人の転出超過となった。平成11年以降、転入超過が続いていたが、24年は転出超過となった。

区別にみると、転出超過数が最も多いのは長田区の310人である。一方、転入超過数が最も多かったのは中央区の71人である。

(4) その他県下

885人の転入超過となった。前年と比べると、転入超過数は7人増加した。転入超過幅は横ばいであるが、平成9年以降16年連続で転入超過となっている。

区別にみると、須磨区を除く8区で転入超過となっており、垂水区の197人が最も多く、次いで西区の167人となっている。



(5) 大阪府

356人の転出超過となった。平成8年以降、転入超過傾向にあったが、23年に引き続き2年連続の転出超過となった。

区別にみると、転出超過数が最も多いのは西区の203人、次いで北区の170人である。一方、転入超過数は東灘区の128人が最多である。

(6) その他近畿

362人の転入超過となった。前年と比べると転入超過数は13人減少している。平成8年以降、17年連続転入超過となっている。

区別にみると、須磨区を除く8区で転入超過となった。最も転入超過数が多かったのは中央区の139人である。

(7) 東日本

837人の転出超過となった。転出超過数は平成10年以降概ね増加傾向が続いていた。平成23年3月に起きた東日本大震災による影響からか23年の転出超過幅は大きく縮小した。24年は東日本大震災前の水準には戻っていないが、前年に比べ転出超過幅は拡大した。

区別にみると、中央区を除く8区で転出超過となった。転出超過数が最も多いのは北区の249人、次いで須磨区の181人である。

(8) 西日本

1,329人の転入超過となり、平成8年以降、17年連続転入超過となっている。

区別にみると、全ての区で転入超過となっており、転入数が多い順に中央区の328人、東灘区の310人、灘区の205人である。

(9) 国外

592人の転入超過となった。前年は46人の転出超過であったが、24年は転入者数が増加し、転出者数が減少したことにより、転入超過となった。

図13 相手地域別転入超過数(平成24年)

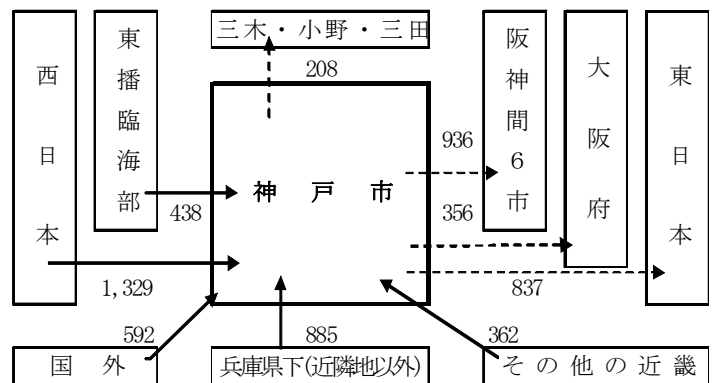


表9 区、相手地域別転入超過数

(単位:人)

相手地域	震災前 平均	平成23年 全市	平成24年													
			全市	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	本区	北須磨	垂水区	西区		
転入超過数	7,141	2,365	1,280	750	627	1,295	54	△ 449	△ 409	△ 974	△ 46	△ 928	453	△ 67		
市内とのa)	32	24	11	511	194	94	△ 396	△ 162	△ 95	△ 356	10	△ 366	158	63		
市外との	7,140	2,341	1,269	239	433	1,201	450	△ 287	△ 314	△ 618	△ 56	△ 562	295	△ 130		
近畿	5,833	1,197	185	202	122	452	171	△ 91	△ 344	△ 435	△ 65	△ 370	193	△ 85		
近隣地	568	161	△ 706	△ 126	△ 29	177	25	△ 83	△ 353	△ 252	△ 84	△ 168	△ 12	△ 53		
阪神間6市	3,339	△ 266	△ 936	△ 212	△ 40	△ 5	△ 47	△ 93	△ 44	△ 186	△ 62	△ 124	△ 96	△ 213		
東播磨海部	△ 2,099	204	438	60	11	111	68	△ 25	1	△ 35	9	△ 26	80	167		
三木、小野、三田	△ 672	223	△ 208	26	—	71	4	△ 35	△ 310	△ 31	△ 13	△ 18	4	△ 7		
兵庫県下(近隣地以外)	205	878	885	108	106	95	60	149	32	△ 29	5	△ 34	197	167		
大阪府	4,417	△ 217	△ 356	128	21	41	11	△ 170	△ 26	△ 135	1	△ 134	△ 23	△ 203		
その他近畿	643	375	362	92	24	139	75	13	3	△ 19	15	△ 34	31	4		
東日本	△ 566	△ 112	△ 837	△ 114	△ 46	141	△ 103	△ 249	△ 84	△ 181	△ 34	△ 147	△ 63	△ 138		
西日本	1,303	1,302	1,329	310	205	328	159	3	32	15	24	△ 9	179	98		
国外	570	△ 46	592	△ 159	152	280	223	50	82	△ 17	19	△ 36	△ 14	△ 5		

注)「従前の住所なし」又は「抹消」を除く。

「阪神間6市」とは、芦屋、西宮、宝塚、尼崎、伊丹、川西の各市をいう。

「東播磨海部」とは、明石、加古川、高砂の各市と稲美町、播磨町をいう。

a) 須磨区内の「本区」と「北須磨」の間の移動の数値を含む。(その他の区については、区内移動の数値は含まない。)

(担当: 高木 内線2327)